

主 訴

(保護者)
勉強がわかりにくい。
(担任)
学力をつけることが難しい。

判 断

- ・ 知的発達の遅れはない。
- ・ 読み書きや計算に困難がある。
- ・ 話の内容が理解できないことから、注意が逸れる。
- ・ 言語障害があったため過保護な養育となり、その年令の発達課題をあいまいにしてきた。

支援と配慮

< 通常の学級における支援 >

- ・ 楽しくわかりやすい、笑いや作業がある授業作り
- ・ 予習で得た手がかりを授業に生かして力を発揮させる。
- ・ 「ぼくもできる」という思いを積み重ね、自信を育てる。
- ・ 短時間全員に計算力の基礎を鍛える取組をする。

< 通常の学級外の支援 >

- ・ ことばの教室では、聞く力や発音など基本の指導を大切に。
- ・ 障害児学級では毎日朝学習の時間に音読を中心に国語教材の予習をする。
- ・ 家庭では学校と連携し、できたことを褒める。

その後

- ・ 音読が得意になり自信を持って授業に参加できるようになり、「わかってうれしい」と言えるようになった。
- ・ 生き生きと学校生活を送るようになり不注意傾向が改善した。
- ・ 保護者も親としての自信を回復してきた。
- ・ 学校として、同じ手だてで支援できる児童に対して取組を広げている。児童たちも喜んで来ている。



